

新年度予算で 市民の声を届けて実現！

工事が始まった長七小→



教育・子ども

- ・小中学校耐震化工事
改築→七小校舎・体育館
改修→三小体育館、四小東校舎・体育館、
長中南東・南西校舎、三中北東校舎
- ・神足小の体育館屋根改修
- ・十小の給食棟への太陽光発電設置
- ・はあと・ふる教室（通級指導教室）の増設
（長九小）
- ・幼稚園に通う子どもの保護者への助成増額
- ・学童保育の土曜午前の指導員配置
- ・きりしま・友岡・海印寺保育園での看護師の常勤配置
- ・認可外保育所への運営補助増額
- ・認可外保育所に通う乳児への保育料補助増額

6月開設予定で建設が進む
「第2天神の杜」
（奥海印寺）



高齢者・介護

- ・75歳以上への人間ドック助成復活
- ・ユニット型特別養護老人ホーム1ヶ所増設
（奥海印寺）
- ・認知症高齢者向けグループホーム2ヶ所増設
（奥海印寺、久貝）
- ・高齢者を虐待から一時保護するための施設確保
- ・独居の高齢者対象に火災警報器設置の相談と取り付け作業を無料実施（警報器は自己負担）

相談先：高齢介護課 電話955-9713

生活保護

- ・生活保護母子加算復活
- ・生活保護世帯または生活保護相談に来た市民対象に多重債務について司法書士による無料相談

相談先：社会福祉課 電話955-9517

障がい者

- ・障がい者グループホームの増設（下海印寺）
- ・第2ひまわり園建設
- ・視覚障がい者のマッサージ施術就労機会の創出
→多世代交流センター（こらさ）で実施
- ・障がい者自立支援サービス料の非課税世帯への
応益負担廃止

保健

- ・乳がん・子宮がん検診クーポン券発行

間伐整備され明るくなった竹林（浄土谷）



環境

- ・住宅用太陽光発電設置助成の創設
- ・西山作業道整備（浄土谷）
- ・西山散策マップ作成・各学校配布
- ・西山の間伐材・竹の活用推進

今年2月に新たに
防護柵のついた田
畑（浄土谷）



農業

- ・農作物へのイノシシ被害を防ぐ防護柵設置
- ・地産地消の推進へ朝市の拡大

中小企業

- ・中小企業への融資保証料補給金限度額を3分の2へ引き上げ

防災

- ・防災マップ全戸配布
- ・住宅耐震の無料相談の実施
相談先：営繕課 電話955-9718

3月議会 暮らしやすいまちにするための提案

75歳以上の人間ドック助成復活

後期高齢者医療制度の実施で、75才以上の人間ドックの助成がなくなり、「病気の早期発見早期治療のため、75才で差別することなく助成せよ」と求めてきました。

市長は、「75才以下の国民健康保険者と同様に、この4月から自己負担のうち一人2万円を公費で負担する」という答弁をし、実施が決まりました。

犬・猫と「まちをきれいにする条例」

犬や猫などペットは家族の一員。しかし、「フンの後始末」では、一部飼い主のマナー違反も目立ちます。啓発看板とあわせて、「マナーを守っている飼い主に『ワッペン』を贈り激励する取り組みを」との提案に、「実施に向け検討する」と答弁がありました。

野良猫への対策は、市民レベルで自主的に「不妊・去勢手術」費用を出し合い繁殖を抑えながら見守りを続けるグループもあり、行政の支援を求めました。「まちをきれいにする条例」を発展させる意味でも、地域や市民の取り組みへの行政の支援が必要です。

大規模化する学童保育の分割化

留守家庭児童会(学童保育)の必要性は高まっています。

安全で安心な保育生活を保障するために、大規模化したクラブの分割化と、プレハブ施設の耐久年数からくる施設建て替えを求める中、「今後、神足小、長三小、長五小の分割を検討している」と答弁がありました。

また、土曜の午前保育が保護者会まかせではなく、行政の責任で指導員を配置できるようにしました。

西山の自然をさらに身近なものに

西山の自然を活かすよう求めました。子どもたちが自然とふれあい、環境意識が高まるよう各課・関係団体との連携を強め、散策マップを作成すること。また、西山の20%、160haが森林整備中で、間伐材は公共施設などに活用を広げ、竹の活用として農業用土壌改良などさらに推進されることが明らかになりました。

市民の足・公共交通の充実を

はっぴいバスの実証運行は22年度で終わりですが、東部地域、南部地域の交通不便地域の解消や、西部地域での公共交通空白地域対策、交通弱者や高齢者の交通手段を確保するための要望は高まっています。

今後もバス利用の利便性を向上するとともに、不便地域の解消を図り高齢者などの外出を支援・援助し、公共施設を一便でつなぐなど、まちの活性化と住民福祉の向上に資するためにも、引き続きの運行と充実を求めました。

生涯をつないでいく発達支援を

アスペルガー症候群や学習障がいなど、発達障がいを含めた障がいのある子どもたちの、乳幼児期から成人になるまでの発達支援、特別支援を、途切れず各関係機関がつないでいくこと、今の支援をさらに充実することを求めました。

その中で、「はあと・ふる教室(通級指導教室)増設を検討している」(新年度九小に増設)、保護者や本人が関係者と一緒に成長を記録していくファイルづくりについて「検討する」と答弁がありました。